

Fuji Champion Race Series Round 5

2023.10.7 SAT - 8 SUN

86&BRZ Fuji 86BRZ Challenge Cup Round 4



N1車両の86&BRZレースと、チューニングカー・ナンバー付きの富士86BRZチャレンジカップは、これが最終戦。予選終了2分を切ってひとりアタックをして、ポールポジションを奪ったのは、JP-2Sの#26中澤卓也。「練習でリアのトラクションが足りない感じに悩まされていましたが、ニュータイヤ入れたら改善されたので、余裕を持って走れました。決勝ではヘマをしないように」と#26中澤。その横に並んだのは、86&BRZの#312松本晴彦だ。そしてJP-3Sでは#72堀シュンジ、JP-4Sでは#17吉成公一が、前回に続き予選トップだった。

開幕戦でデビューウインを飾った#26中澤が、前回のウィナー#700梅原雄一不在のレースで、再び主役の座を射止めた。スタートは#312松本が決めたが、パワー差にモノを言わせ、TGRコーナーにトップで飛び込むと、もう誰も寄せつけず。同じJP-2Sの#16 ISHIKENが2周目には2番手に上がるも、その時点で2秒半もの差がつく。終盤にはペースを抑える余裕も、と思われたが、「最後、ガソリンがやばくて、抑えざるを得なかったんです。

最後までもって良かったです。たぶん、もう空っぽです」と苦笑いも、#26中澤が3戦2勝でシリーズを締めた。JP-3Sでは#72堀が「またスタート失敗です」と語るも、3周目のダンロップコーナーで#43常盤岳史を逆転。そしてJP-4Sでは「今回も逃げるのが大変でした。でも逃げ切れて良かったです」と語る#17吉成が優勝。それぞれ連勝で3勝目、2勝目を挙げた。

総合3位を競ったのは、86&BRZのふたり。#312松本に2周目を終えた時点で、#53森田幸一郎は3秒差をつけられていたが、これが徐々に詰まってくる。さらに#312松本には、スタート手順違反で5秒加算のアナウンスが。戦わずして#53森田の勝ちが確定したが、ふたりにそれを知る由はない。最終ラップのコカコーラコーナーで#53森田が逆転に成功。「しびれました、めっちゃ嬉しいです。最後まで頑張ってるにいれば、何かあるかなと思っていて、いい締めくくりになりました」と#53森田。前回は涙の初優勝だったが、今回は笑顔の2勝目となった。王座は3ポイント差で#312松本が獲得した。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	53 森田 幸二郎
2	312 松本 晴彦
3	54 伊藤 俊哉
4	222 松下 浩平



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	26 中澤卓也
2	16 ISHIKEN
3	241 鈴木貴大
4	3 小野明則



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	72 堀シュンジ
2	726 勝又臣楠
3	43 常盤岳史
4	33 豊田 敬
5	616 伊東康宏



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S

Rank No.	Name
1	17 吉成公一
2	564 柴田明成
3	184 SAITO KYOU
4	7 相原泰祐

NEOHISTRIC/AE111 Round 2



予選でNA1600の#63矢島篤が最速タイムだったが、四脱がありタイムは抹消。入れ替わってシルビアの#15山崎浩明がポールポジションを獲得した。総合3番手はAE111トップの#47ジェネリック内田だった。

決勝レースは、ローリングスタートで開始。最高速に勝るシルビアの#15山崎がトップをキープしてTGRコーナーに飛び込むが、離れず続いた#63矢島がアドバンコーナーでインを刺し、トップを奪い去る。帰ってきたストレートで#15山崎は再びトップに立つも、今度はダンロップコーナーで#63矢島が再逆転。そのまま逃げていく。一方で#15山崎はNA1600の#37秋元優範への防戦一方となってしまった。「100Rが速い。NAは。羽根

(ウイング)が効いているんだな」と#15山崎。堪えきれず、7周目には#37秋元の逆転を許していた。逃げ切った#63矢島はチャンピオンも獲得し、「狙いどおり?いや、想像以上かな」と満足そうだった。

総合4位はAE111の#47内田が、「小心者なので、早く逃げちゃおうと」、一度もトップを明け渡すことなく優勝し、王座も獲得。その後方ではAE111の#72高橋ノボルとネオヒストリックAE86の#240山口崇、同MR2の#78谷田伸行によるバトルが繰り広げられ、5周目から前に出た#240山口がクラス4位を獲得。これに続いた#72高橋がAE111の2位を得た。



RESULT リザルト NEOHISTRIC

Rank No.	Name
1	64 矢島 篤
2	37 秋元 優範
3	15 山崎 浩明
4	240 山口 崇
5	78 谷田 伸行
6	20 木邨 一吉



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	47 ジェネリック内田
2	72 高橋 ノボル
3	18 塩岡 雅敏
4	91 船木 周一
5	13 金崎 権
6	98 窪田 範明

Super FJ



筑波・富士シリーズとジャパンリーグのWタイトルとなったSuper FJには20台がエントリー。ポイントリーダーの#52小村明生を従え、フロントローに並んだのは#6渡会太一と#91白崎稜。このふたりが、早々に後続を引き離し、激しいトップ争いを演じた。まず#6渡会がスタートに出遅れ、4番手にまで順位を落とすも、1周目のうちに3番手に返り咲き、2周目のダンロップコーナーでは#52小村をパス。その時点でトップ#91白崎とは1秒の差があったが、徐々に近づいて4周目にはテール・トゥ・ノーズ状態に。その勢いで5周目のGRスーパーカーナーで、#6渡会がトップに立つ。

だが、#91白崎も遅れることなく続いてチャンスを待つが、#6渡会は少しも隙を見せず。コンマ4秒差で逃げ切って優勝を飾った。「スタートは大失敗しましたが、しっかり巻き返せて良かったです」と#6渡会。

一方、2位の#91白崎はジャパンリーグの王座を獲得。「勝って決めたかったです、チャンピオンになれたのは光栄なこと」と語っていた。3位は#52小村を中心に5台で最後まで争われたが、最後は#1元山泰成と#34小田優とともに横一列に。鼻差で前に出た#52小村の筑波・富士シリーズのタイトルを確定。「31歳、おじさんパワーで頑張りました」と#52小村。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	6 渡会 太一
2	91 白崎 稜
3	52 小村 明生
4	1 元山 泰成
5	34 小田 優
6	36 磐上 隼斗

2023 TCR JAPAN Series Round 4



Saturday Series

SUGOでの最終戦をまだ残しているが、早くも#98猪爪杏奈がタイトルに王手をかけて臨んだTCRのSaturdayシリーズ。その#98猪爪が、新型シビックFL5を初導入の#690久保田英夫、そしてスポット参戦の#19 TAKESHI SUEHIROを従えて、ポールポジションを獲得。「後ろにいる、お二人はベテランですし、いいバトルをさせてくれるはずですから、自分に引き出しを与えてもらいます！いちばん意識すべきことは、ちゃんとポイントを獲得することで、チャンピオン争いは初めての経験ですから、しっかり組み立てて戦っていきたいです」と#98猪爪。

一方、その#98猪爪に唯一ストップをかけられる存在の#65加藤正将は、7番手に甘んじたばかりか、決勝のグリッドについていない。エンジンが始動せず、無念のリタイアを喫したことで#98猪爪の王座確定が極めて濃厚となった。さらに#690久保田がスタートできず、#98猪爪がTGRコーナーへのホールショットを決めるが、その後後に2台が接触。いきなり

セーフティカー(SC)が導入されてしまう。1周目を終えた時点での順位は#98猪爪、#19 TAKESHI、#69梅本淳一、そして最後尾から一気にジャンプアップの#7玉田誠二という並びに。

2周に及んだSCの先導の後、バトルは再開。#19 TAKESHIが#98猪爪と間を開けずに続いていくが、TGRコーナーで逆転するまでには至らず。そのまま逃げ続けた#98猪爪は、ラスト2周こそ#19 TAKESHIの接近を許しはしたが、3勝目をマークして、まずはSaturdayシリーズのチャンピオンを確定させた。3位は最後尾から巻き返した#690久保田が獲得。

マシンを降りるなり、涙を見せた#98猪爪は「チェッカーを受けてチームの人と無線で話している時から、自然と涙が出てきました。ちょっと後半きつかったんですけど、前半に勢いのある車を作ってくれたチームのおかげです。チャンピオンにはなれましたけど、ラッキーなところもあったので、明日も気を抜かず走りしたいと思います」と素直に語ってくれた。



Rank No.	Name
1	98 猪爪 杏奈
2	19 TAKESHI SUEHIRO
3	690 久保田 英夫
4	69 梅本 淳一
5	MOTOTINO
6	17 鈴木 建自

Sunday Series

Sundayシリーズでも、#98猪爪はポールポジションを獲得。前日よりもコンマ3秒のタイムアップは「気温もあると思うんですけど、セットも攻めていったので、それで稼げたと思います。今日こそ勝負して、いい結果を出したいです」と語っていた。2番手は#690久保田、#19 TAKESHIが続くのは前日同様だ。

注目の決勝は、なんと雨に見舞われてしまう。それでも雨足は強くなかったことから、果敢に#690久保田と#19 TAKESHI、4番手の#69梅本らがドライタイヤをチョイス。ウエットタイヤを選んだ#98猪爪がTGRコーナーにトップで飛び込むも、止まりきれずオーバーラン。これで#690久保田がトップに躍り出る。そしてアドバンコーナーでは、6番手からウエットタイヤで臨んだ#65加藤が、#19 TAKESHIを抜いて2番に浮上！

#98猪爪の王座獲得阻止に闘志を燃やす#65加藤は、その勢いのまま

2周目のTGRコーナーでトップに立ち、そのまま逃げ続ける。だが、雨足が弱まったこと、そしてドライタイヤにより熱が加わって、4周目から立場が逆転。一気に#690久保田と#19 TAKESHIが迫ってくる。6周目のTGRコーナーへ先に飛び込んだのは#65加藤だったが、2コーナーで#690久保田と接触。ともに姿勢を乱して再接触した脇を#19 TAKESHIが、左からすりとかわしていく。#98猪爪も2番手に。そして#690久保田、#65加藤は無念のリタイアに。「序盤はオーバーステアきつくて、なかなかタイヤ温まらなくて、前後バランス取れなかったんですが、ちょうど前よりペースが良くなって、追いつき始めた時に2台が当たっていて。巻き込まれなくて逆にラッキーでした」と語る#19 TAKESHIは、これが今季3勝目。一方、2位でゴールした#98猪爪ながら、わずかながらも4位でゴールの#55 MOTOTINOに王座逆転の可能性を残すこととなった。



Rank No.	Name
1	19 TAKESHI SUEHIRO
2	98 猪爪 杏奈
3	3 CHOI JEONGWON
4	55 MOTOTINO
5	7 玉田 誠二
6	69 梅本 淳一



BMW & MINI Racing
ROUND.5

富士では今季2度目の開催となる、BMWの M2 CS RacingとMINI CHALLENGEの混走レース。M2 CSRは基本450PSを誇るが、パワースティックによって420PS、365PSの出力規制が可能。もとより420PSが上限のプラチナドライバー、#8近藤翼と#46山西康司が前回までの結果で、さらに365PSに絞られて7番手、9番手に沈む中、ポイントリーダーの#25水元寛規がポールポジションを獲得する。MINI CHALLENGEではナンバーなしのJCWで#1木村建登が、ナンバー付きのCPSでは#32川福健太が、それぞれトップ。

決勝では#25水元がスタートに出遅れ、#55石井一輝がトップに立つも、ワンミスを見逃してはくれなかった。5周目のGRスーパコーナで前に出た#25水元はそのまま逃げ切って、今季6勝目をマーク。2連覇に王手をかけた。#46山西は7位、#8近藤は9位だった。

JCWでは#1木村が「M2勢に追いついちゃって、最終コーナーで踏めず、加速が鈍って」#57天田亮の先行を許すも、わずかに1周でトップを取り戻す。その後はじわりじわりと差を広げて今季6勝目を挙げ、やはり連覇に王手をかけていた。CPSでは#32川福が一度もトップを譲らず、「最初に少しブッシュして、そこからコントロールしようと思っていたので、そのおりの展開になって良かったです」と語りながらも、22秒差の圧勝で5勝目をマーク。他のウィナー同様、王手をかけていた。

第9戦



RESULT リザルト M2CS

Rank No.	Name
1	25 水元 寛規
2	55 石井 一輝
3	50 神頭 政志
4	56 加納 政樹
5	47 舟越 裕介
6	70 片山 剛



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	1 木村 建登
2	57 天田 亮
3	9 平田 雅士
4	34 MASA



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	32 川福 健太
2	73 ジュンクーパー
3	5 大堀 佳祐
4	3 大西 久之
5	36 定村 吉高
6	77 石橋 威洋

第10戦

BMW & MINI Racingでは、RACE2のグリッドをRACE1決勝結果の60%をリバースグリッドで決することから、M2 CSRではトップ6が入れ替わって、#70片山剛がポールからのスタートに。果たして6番手から#25水元が、どう戦うのか? JCWでは、#57天田、#1木村の順に。CPSではトップ3を入れ替え、#5大堀佳祐がトップで、#32川福は3番手となった。

第10戦決勝はあいにくの雨模様、だが#8近藤には恵みの雨に。#70片山がスタートに出遅れ、3番グリッドから#56加納政樹がトップに立ち、1周目を終えると#8近藤は、#25水元に続く4番手に。#25水元は4周目のストレートでトップに浮上すると、最後までアクセルを緩めず。一方、#8近藤は

420PSの#56加納を相手に一歩も引かず、一度は前に。結局ストレートで抜き返されるも、見応えのあるバトルを見せた。「自分の強みを使いながら早めに仕留めましたが、ワンミスが命取りになるので安心はできませんでしたが、楽しかったです」と語った#25水元が2連覇を達成。

JCWでは#1木村のセット変更が裏目に出て、苦戦を強いられるも、最終ラップに逆転。しかし、そこは黄旗区間だった。結果、#57天田が順位を戻す格好となって2勝目をマーク。チャンピオンは#1木村が獲得。CPSでは「モタモタしていると、抜くチャンスがどんどんなくなるレースなので」1周目を終えた時点でトップに立った、#32川福も2連覇となった。



RESULT リザルト M2CS

Rank No.	Name
1	25 水元 寛規
2	56 加納 政樹
3	8 近藤 翼
4	46 山西 康司
5	55 石井 一輝
6	70 片山 剛



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	57 天田 亮
2	1 木村 建登
3	9 平田 雅士
4	34 MASA



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	32 川福 健太
2	5 大堀 佳祐
3	3 大西 久之
4	73 ジュンクーパー
5	77 石橋 威洋
6	36 定村 吉高

N1500/N1400/N1000
Audi A1 Fun Cup/Beetle Fun Cup
Round 3



Beetle Fun Cupで孤軍奮闘ながら、前回のレースで予選最速タイムを記していた#16齊藤博徳をも抑え、N1400の#21大竹直がポールを獲得。同クラス2番手の#5水谷明彦を、ほぼ1秒引き離すも、「あくまで予選なので、決勝の駆け引きはまた別物。でも、後ろから行くよりは、前で様子を見てペースを作ればと思っています」と語る。総合8番手はAudi A1 Fun Cupトップで、ここまで2勝を挙げている#110近藤匠が獲得。「今週、全然走れていなかったで、いつもだったら2、3周でやめるんですが、今回は最後まで行こうって作戦で、なんとかギリギリ出たという感じです」と語った。クラス2番手は#104飯島宗久で、3番手を#105森花海が獲得。

決勝では#21大竹が好スタートを切り、トップでTGRコーナーに飛び込むと、Beetleの#16齊藤は「チャンピオン争いと分からないけど、無理して間に入っても」と、あえてN1400勢を先行させていた。#21大竹の予想どおりライバルは逃げを許してはくれず、#5水谷と#3山田大輔がびたりと食らいついて離れない。長年、戦い合っている同士とあって、それぞれ最後のストレート勝負と決めていた様子。だが、我慢しきれなかったのか、最終ラップのコカコーラコーナーで#3山田が#5水谷に迫るも抜ききれない。これが#21大竹を楽にした。逃げ切った#21大竹は「やっとな、初めてですね、シリーズ全勝は。30年近くやって(笑)。最後の1周に賭けましたが、小競り

合いを始めてくれたのが唯一の安心材料でした」と#21大竹。

Audi A1 Fun Cupは#110近藤と#105森が激しくトップを争い。8周目のTGRコーナーで#105森がトップに立つも、次の周には#110近藤に抜き返されていた。が、最終ラップには#104飯島が急接近。TGRコーナーにスリーワイドで飛び込み、先頭で立ち上がったのが#105森「優勝は去年の最終戦以来で、最後に一矢報いられて良かったです」と大喜び。2位でゴールの#110近藤は「まあ、しょうがない。チャンピオンを獲れたんですが、今は実感ないですね」と本音を語っていた。一騎討ちとなったN1000は#48河合宏太が「本当に嬉しい!」初優勝。孤軍奮闘のN1500では、#91犬飼祐輝が無事完走を果たしている。



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	3 山田 大輔
3	5 水谷 明彦
4	84 竹田 幸一郎
5	26 サイトウ カズミ
6	59 加藤 隆始



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	48 河合 宏太
2	25 赤堀 康裕



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	105 森 花海
2	110 近藤 匠
3	104 飯島 宗久
4	108 野田 望
5	102 森 慎一
6	103 ナガサワ クミコ

FCR-Vitz
FCR-86BRZ RACE
Round 3



全3戦で争われるFCR-86BRZとFCR-Vitzは、前回は単独開催だったが、再び混走に。それぞれ15台、17台が予選に臨んでいた。#312松本晴彦と#338角谷昌紀が同点で臨んだ予選は、まず#338角谷に軍配が。しかも間に#101伊藤幸佑を挟んでいた。「もうちょっと行けたんですが、最後に詰まっちゃって。でもトップ獲れて、記録なので良かったです」と#338角谷。FCR-Vitzは計測2周目に#50三浦康司がトップタイムを記し、すぐピットインするも、その後に誰の逆転を許さず。「今回は本当に状態良かったので、実はベスト出した翌周も記録行けるぐらい、直線でスリップをもらえたり良かったんですが、ダンロップでメカと無線で話していてシフトミス(笑)。でも、雨降るかもしれないので、少しでもタイヤを残しておこうと」、記録更新に100分の2秒足りずも、悔いはない様子。

決勝は#50三浦の予想どおり雨が降り、ウェットコンディションでの戦いとなった。FCR-86BRZでは、スタートで前に出たのは#312松本ながら、#338角谷も遅れず続き、ダンロップコーナーでのワンチャンスを逃さず。

4周目にトップに立ってからは逆に#312松本の猛攻を凌ぎ、2勝目を挙げた。「ベテラン相手に、チャンピオンが獲れてすごく嬉しいです。次のレース、何出るか分からないですし、続けるかもしれませんが、また頑張っていきます」と#338角谷。#312松本は敗れたりとも、「いいバトルでした。クリアだったし、楽しかったし」と納得の様子。3位は#115三浦亮保が、予選よりひとつ順位を上げて獲得していた。

FCR-Vitzは、完全に#50三浦のひとり舞台。一度もトップの座を開け渡さなかった。「全戦ボール、全戦ファステストで、全勝したかったので、本当に良かったです。雨だったので、タイヤは少しきつかったですけど、予選からの温存があって、みんなより少し有利だったんでしょうね。また来年も出られるように、頑張ります」と#50三浦。ライバルにとっては、聞き捨てならぬ発言か！2番手も#713白井涼がしばらく単独走行だったが、終盤になってペースが鈍りだす。そこに近づいてきたのが#39前田貴行。8周目に逆転し、#7鈴木陵太の追撃をかわっていた。#713白井は5位に。



RESULT リザルト FCR-86BRZ RACE

Rank No.	Name
1	338 角谷 昌紀
2	312 松本 晴彦
3	115 三浦 亮保
4	33 米田 利唯
5	23 YOSHIKI
6	101 伊藤 幸佑



RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank No.	Name
1	50 三浦 康司
2	39 前田 貴行
3	7 鈴木 陵太
4	46 ジェネリック内田
5	713 白井 涼
6	96 富田 成俊